

下関リハビリテーション病院

季刊誌

# オレンジ

地域に寄り添い、地域と共に

Shimonoseki Rehabilitation Hospital

vol. 41

2024.1  
Winter

赤富士 (丸山正博様 画)

基本理念 手には技術、頭には知識、患者様には愛を

## CONTENTS

2P 院長 新年あいさつ

3P 看護部長・医療技術部長 新年あいさつ

4P・5P 訪問リハビリテーションのご案内

6P 医療連携室 室長 新年あいさつ

6P 褥瘡勉強会

7P NST委員会の取り組み

8P 医療連携室より

8P アクセス



一般社団法人 巨樹の会

下関リハビリテーション病院

## 新年のご挨拶



院長 林 研二

謹んで新春をお祝い申し上げます。昨年中は格別なご高配ならびに温かいご指導を賜り厚く御礼申し上げます。お陰様で当院も新しい年を迎えることができました。

私共は、本年こそコロナの呪縛から解放され、下関リハビリテーション病院の本来の責務を果たし、地域の皆様の信頼と期待に応えるべく努力する年だと決意を新たにしています。

リハビリテーション医療も日進月歩進化している今日ですが、当院においても VR（Virtual Reality：仮想現実）機器をはじめ様々な機器を取りそ

ろえ、患者様の機能回復と社会参加の力になりたいと願っています。

また、本年からリハビリテーションの重要な役割の一つである、障害を抱えた患者様の社会復帰のための就労支援プログラムをスタートし、地域社会に貢献することを目指します。

我々職員一同は、「地域に寄り添い、地域と共に」という理念のもとに、引き続き誠心誠意努力する所存であります。本年も何卒宜しくご指導・ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。



看護部 部長 三澤 幸代

**謹**んで新春のお慶びを申し上げます。

新型コロナウイルス感染症も5類に移行され、やっとご家族揃ってお正月を迎えられたことと存じます。院内感染対策では、5類に引き下げられた後も引き続きのマスクの着用等でご協力いただき、感謝申し上げます。

2024年は、辰年です。辰は活力旺盛になり、大きく成長し形がととのう年ともいわれております。当院は、病院創立50周年の節目に当たります。今まで培ってきた地域に根差した回復期リハビリテーション病院として、患者様の回復のお手伝いが出来ればと思っております。これからも皆様に選んでいただけるよう、下関リハビリテーション病院があって良かったと言っていただけよう、看護部一同、より良いケアを提供できるよう日々精進してまいります。

本年も引き続き宜しくお願いいたします。



医療技術部 部長 波多野 崇

**皆**様、新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、ひとかたならぬご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

ご承知の通り、当院では患者様がご自宅での生活を円滑に送って頂くことを目的にリハビリテーションを提供させて頂いております。昨年よりコロナウィルスの影響で一部縮小していた外来リハビリも本格再開させて頂きました。お陰様で今年度は、退院後の生活期リハビリ（外来、訪問、通所リハ）件数も年間3万件を超える見込みとなっております。

その他、新たに VR（バーチャルリアリティ）によりリハビリテーションをサポートする医療機器を導入させて頂きました。こちらはこの数年間、多数の全国学会で発表されている最新の医療機器となっております。対象となる疾患も非常に幅広く、患者様の回復に関してこれまで以上にサポートさせて頂けるものと感じております。

今年も皆様からご意見を頂戴しながら、「下リハがあって安心だね」と思ってもらえるよう「地域の一員」として努めて参ります。

本年も何卒、宜しくお願い申し上げます。

# 2024

在宅生活でのリハビリは 私たちにお任せください！



このような方が訪問リハビリを利用されています！

自宅で  
安全な生活を  
維持したい

食事を  
ムセなく  
食べたい

周りの人との  
意思の疎通を  
図りたい

家庭での  
役割や趣味を  
継続したい

お買い物や  
お出かけを  
続けたい

家族に  
介助指導を  
して欲しい

## ご自宅での リハビリテーションについて

訪問リハビリテーションとは、退院後にご自宅や生活環境で安全に過ごせることを目的とした介護保険のサービスです。

当院での訪問リハビリはお身体の状態の維持・向上だけでなく、住み慣れた環境で安心して生活が継続できることや、楽しみや生きがいをもって生活できることを目指して関わらせていただいております。

理学療法室 主任 林 修平



訪問リハビリテーションを利用するには？

対象者は  
介護保険の認定を受けている方で、  
65 歳以上の第 1 号被保険者と、  
40 歳から 64 歳までの第 2 号被保険者  
となります。また主治医から  
診療情報提供を受けてから  
当院の医師の診察も必要です。



## 訪問リハビリテーション 実施日時

時 間：9:00 ～ 17:00

実施日：月曜日～金曜日（祝日も実施）

訪 問：下関市内（当院より30分以内）  
エ リ ア：エリア外でも対応しております。詳しくはご相談ください。

当院スタッフが  
ご自宅に伺います。



<訪問エリア>

下関旧市内（下関駅周囲・彦島地区・安岡・山の田・唐戸・長府等）

### ◆当事業所の特徴

- 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の様々な角度からのアプローチを行います。
- 関連職種と連携し専門性を発揮します。
- 具体的な目標設定を行い、より積極的に社会参加へ繋がります。
- 社会参加に繋げて生活範囲の拡大を行います。



### ◆活動・参加への取り組み

#### ●ADL（日常生活動作）の向上

自宅内移動やトイレ動作、入浴動作等を安全に行えるような動作練習、自主練習、環境調整を行います。

#### ●IADL（手段的日常生活動作）の向上

買い物、洗濯等の家事全般や、服薬管理、交通機関の利用等が行えるように、本人だけではなく家族への指導や連携を行います。

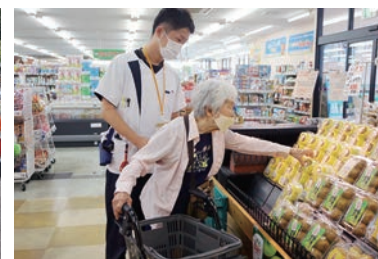
#### ●家庭内での役割

ゴミ捨てや新聞を取りに行く、洗濯物をたたむ等の家庭内での役割を見つけます。

#### ●外出や趣味活動

自宅周辺だけでなく、バスやタクシーを利用して外出するなど、生活範囲の拡大を行います。

## 生活に沿った個別性のあるリハビリ



## 医療連携室 室長より 新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。昨年も「地域に寄り添い、地域と共に」というスローガンのもと、患者様、ご家族様、ならびに地域の皆様からの温かいご支援とご協力を頂きながら職務に励んで参りました。こうして新年を迎えられましたことを心より御礼申し上げます。

昨年新型コロナウイルスが5類へ移行したことにより、それまでの様々

な制限が緩和されつつあります。患者様、ご家族様とも制限なく対面でお話することが出来るようになり、患者様、ご家族から直接頂くお言葉や笑顔が、何よりも私たちの力になっています。皆様と直接お話できる喜びを感じる日々を過ごしています。

今年は病院と地域のみなさまとをつなぐ役割を担う私たち医療連携室においても、医療・福祉の連携を昨

年以上に強化し、従来の「顔の見える連携」を積極的に行い、皆様に信頼される医療連携室を目指し努力していきます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

医療連携室  
室長 中板 留美



## 褥瘡勉強会の開催

当院の褥瘡委員メンバーを対象に3日間に渡って、グループ病院の新小文字病院より皮膚排泄ケア認定看護師の大谷看護師を迎え、勉強会を開催しました。

1日目は褥瘡の定義・原因・好発部位・発生要因などの基礎について講義をしていただきました。皮膚の構造や褥瘡の治癒過程、評価方法など参考書で学んだことがあっても、実際に評価を正しく行えているか、テストを実施し一つひとつ解説していただきました。

2日目は当院の薬剤師も同席し薬剤についての説明。リハビリスタッフも同席しポジショニングについて指導をしていただきました。

3日目はオムツの当て方や実際に業者の方に来ていただきクッションの種類、使用方法についてデモンストレーションしていただきました。

当院での褥瘡持ち込みは去年1年間で66名、院内発生が軽微な発生も含め32名でした。院内発生を防ぐには褥瘡委員だけでなく、全スタッフの協力が必要です。一人ひとりの患者様に対してのオムツの当て方、ポジショニングの仕方です褥瘡発生を防ぐことができます。オムツの当て方については丁寧に当てることで、患者様の不快感の軽減、動きや



すさに繋がります。ポジショニングについては背抜きやクッションの使い方で、安楽な体位、睡眠の質にも繋がります。当たり前のことですが、統一してできていないことが現状であり、院内発生に繋がっています。

今回は褥瘡委員メンバーだけの勉強会でしたが、多くの学びがありました。今回学んだことをこれから全スタッフに発信し、スタッフ全員で褥瘡発生防止、治癒に向け、取り組んでいきたいと思います。

看護部 看護師  
副主任 小笠原 里砂



## NST委員会の取り組み

## 嚥下評価について

患者様に美味しく、安全に食事を摂取して頂くためには、嚥下状態にあった食事の提供が必要となります。また、嚥下状態は変化していくため経過とともに食事形態の変更も必要です。しっかり噛むことができるにも関わらず、ミキサー食や刻み食など見た目がいまひとつの食事を提供し続けると食事量の低下にも繋がってきます。そこで今回は、『嚥下機能評価』

についてお伝えします。

私たち言語聴覚士が嚥下機能を評価するときには、まず患者様の全身・栄養状態、舌・口・唇・歯・軟口蓋などの口腔器官や唾液処理の状態、義歯の適合状況、発声、呼吸・咳嗽力など摂食嚥下に関する機能全般の観察、そして認知機能の確認を行います。観察により患者様に適した検査法を選択

し評価を進めます。スクリーニング検査はベッドサイドで行える簡便な検査で、反復唾液嚥下検査(RSST)、改訂水飲み検査(MWST)、水飲み検査(WST)、フードテスト(FT)が挙げられます。



## 【主なスクリーニング検査】

|      | ①反復唾液嚥下検査(RSST)       | ②改訂水飲み検査(MWST)                           | ③水飲み検査(WST)                              | ④フードテスト(FT)              |
|------|-----------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------|
| 目的   | 随意的な嚥下の繰り返し能力を評価する。   | スクリーニングに加え、水分の取り込みや送り込み、嚥下反射やムセの有無を評価する。 | スクリーニングに加え、水分の取り込みや送り込み、嚥下反射やムセの有無を評価する。 | 食物の取り込みや送り込み、誤嚥の有無を評価する。 |
| 検査内容 | 30秒間で唾液嚥下が何回できるか評価する。 | 3mlの冷水をシリンジで口腔内へ注入し、嚥下を行う。               | 常温の水30mlをカップに注ぎ、嚥下していただく。                | 食物を小さじ1杯分嚥下していただく。       |
| 判定基準 | 30秒間で3回以上嚥下可能で正常。     | ムセなく嚥下を認め、呼吸良好であれば正常。                    | 5秒以内にムセなく嚥下できれば正常。                       | ムセなく嚥下を認め、呼吸良好であれば正常。    |



スクリーニング検査では結果より、どの機能が低下しているか推測はつきますが、不顕性誤嚥や実際の飲み込みの状況を目視できません。その場合、当院では嚥下造

影検査を行います。嚥下造影検査は、X線照射により食物を口に入れて飲み込むまでの全ての過程を観察できる検査となっているため、実際の嚥下機能を評価できます。検査中には、安全に飲み込むことができる体位や、患者さんに適した食物の状態を調整しながら検査を進めていきます。

嚥下機能は嚥下することによって維持される面も大きく、加齢や廃用によるサルコペニアの進行をできる限り防ぐようにリハビリテーションなどを含めた早期離床の支援を行うことが、嚥下機能を衰えさせないために大切だと考えられます。



リハビリテーション科  
言語聴覚士 瀬田 夕風



## 医療連携室より 年初の誓い

みんなで笑顔あふれる毎日に

笑顔で挨拶！  
全力でサポートします。

一日一生。  
一日一日を大切に  
過ごす。

想像・共感・寄り  
添うことを大切に

1日1歩、日々成長を  
続けます。

笑う門には福来る  
心も身体も健康に

今年は弱った頭と  
体を鍛えていくぞ！

医療ソーシャルワーカー  
医療連携室 室長 中板 留美

医療連携室 事務  
山田 美穂

特別顧問副院長  
林 きよみ

看護師  
主任 川口 良子

看護師  
園川 亜弥

医療ソーシャルワーカー  
医療連携室 主任 上野 純子

医療ソーシャルワーカー  
岡田 真之介

先を見据えた支援を  
行っていく。

様々な知識を身に付け  
ていきます。

多職種と連携して  
支援していきます。

話しかけやすい  
MSWを目指します。

笑顔を決やらずに  
頑張ります。

医療ソーシャルワーカー  
北村 恭平

医療ソーシャルワーカー  
安藤 七夏

医療ソーシャルワーカー  
坪井 美桜

医療ソーシャルワーカー  
高田 七海

医療ソーシャルワーカー  
竹田 佳代

しっかり体調管理をし  
元気に過ごす。

笑顔を決やらず  
頑張ります。

多職種との関わりを  
しっかりする

退院支援看護師  
小野 貴江

退院支援看護師  
西岡 麻梨

退院支援看護師  
杉田 真愛

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます

表紙の絵：入院患者様の作品（油絵）です。赤富士には、厄除け・商売繁盛・願望成就・悪縁が切れるなどの効果があるといわれています。（担当療法士）



一般社団法人 巨樹の会

下関リハビリテーション病院

〒750-0064 山口県下関市今浦町9番6号

TEL:083-232-5811 FAX:083-232-0219

URL:https://www.shimoreha.jp

Mail:info@shimoreha.jp

### アクセス方法

●JR 下関駅より徒歩5分

●サンデン交通竹崎バス停より徒歩1分



日本医療機能評価機構  
認定第 JC2314 号

